



ふじあざみ

発行
国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所
富士宮市三園平1100
電話0544(27)5221
<http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>



富士宮市商工観光課 提供

富士山御神火まつり

富士山麓の登山口では、夏山に対する強い思いと信仰により、火の祭典が行なわれ、お山をにぎわしています。

南口(富士宮市)では“富士山御神火祭り”、北口(富士吉田市)では“吉田の火祭り”と、富士山の夏を彩る火の祭典として大変人気があります。数年前までは、東口(御殿場市)での“富士山ワラジ祭り”という火祭りも行われていましたが、現在ではとりやめとなりました。

“吉田の火祭り”は毎年8月26、27日に行なわれ、日本三大奇祭のひとつとして有名であり、また富士山閉山を告げる祭りとしてもよく知られています。

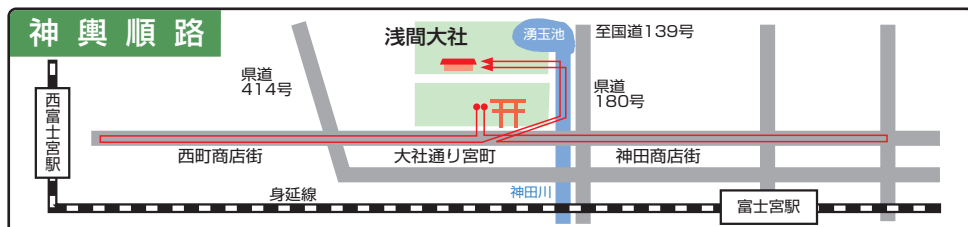
“富士山御神火祭り”は毎年8月の第一土曜日に富士山本宮浅間大社境内と市街目抜き通りで開催される火祭りで、今年は8月4日開催です。それでは、富士宮市の“富士山御神火祭り”を紹介します。

富士宮市は富士山を御神体として、平安時代に造営されたと言われる富士山本宮浅間大社の門前町として栄えてきました。今年で28回目を迎える富士山御神火祭りは、祭り前夜に登山隊が富士山頂に登り、富士山本宮浅間大社奥宮で採火された御神火をいただき、祭り当日富士山御神火ウォーク隊により平和の祈りを込めて、富士山本宮浅間大社までリレーでつなぎ奉納、奉納後、御神火神輿に点火して始まります。夕方からは町中が祭り一色にそまれます。祭り発足当時2基だった神輿

も12基となり、年々盛大となっています。神輿の重さは800kg～1tもあり、60～100人もの人で担ぎ市中をねり回って威勢をあげます。

この祭りの最大の呼び物は、御神火を点火した11基の神輿が水温13度という冷たい富士山の湧き水が流れる神田川に突入、腰まで水に浸かりながら60人以上の担ぎ手、神輿が火の粉を浴びながら流れを遡る勇壮な大人神輿です。

翌日行なわれる“宮おどり大会”は市制50周年記念行事として創作された新しい踊りで、“宮おどり”と“新富士宮音頭”を市民6000人が昼から夜にかけて市内の目抜き通りをリズムカルに踊ります。



富士山の基礎知識 富士登山

信仰登山の長い歴史をもつ富士山も、現在では観光登山の山として広く親しまれています。富士登山のシーズン(7~8月)の2ヶ月間で、20万をこえる老若男女が山頂を目指します。今回は「富士登山道の今と昔」と、「外国人と登山」について紹介いたします。

現在の主な登山道



①河口湖(吉田口)登山道

年間約15万人の人が利用する人気の登山道で、標高2,240メートルのスバルライン5合目から登り始めます。この道は山中湖や河口湖を眼下に南アルプスや八ヶ岳まで望める楽しいコースです。吉田口とは6合目で合流します。

②富士宮口登山道

富士山の表口としての歴史をもつ伝統コース。年間約8万人が利用する人気コースで、標高2,400メートルの新5合目から最短距離で富士山頂へ。振り返れば駿河湾が一望のもと、景観は抜群です。

③須走口登山道

富士山東中腹、標高2,000メートルの新5合目にある古御岳神社から登り始めます。眼下には山中湖が広がり、駿河湾や伊豆半島まで見渡せます。8合目からは河口湖(吉田口)登山道と合流し頂上へ。

④御殿場口登山道

標高1,402メートルの新5合目が起点で、他の登山口の中で最も低いため頂上迄の距離が長く、富士山随一の難コースです。振り返ると丹沢から箱根、伊豆など雄大な展望が開けます。

以上が現在利用されている登山道ですが、古くは甲斐に吉田口、河口湖口、船津口、精進湖口、駿河に大宮口、村山口、須山口、須走口などといった登山道がありました。

衰退した昔の登山道

吉田口登山道

富士吉田市の北口本宮浅間神社を起点とし、歴史ある登山道で、他の登山道が数々の栄枯盛衰を繰り返している中、この登山口だけは数百年の長い間栄え続けました。特に江戸時代は富士講の隆盛により、江戸

より多くの登山者が吉田口へと向いました。しかし、河口湖を起点とした5合目までの富士スバルラインの開通(昭和39年)により衰退していきましたが現在でも一部の方が利用されています。

須山口登山道

静岡県裾野市にある須山浅間神社を起点とする登山道です。登山道の中でも一番激しく変化をしたところです。登山道としての始まりは西暦808年と言われ、江戸時代の初期には年間5千人を超えたことも多くあったと記録されていますが、宝永大噴火により登山道の大半が埋没。修繕するも再開まで何年かの長い年月を費やしました。御殿場口の開さく(明治16年)、東海道線の開通(明治22年)により、駅から近い御殿場口がにぎわうようになり、須山口は衰退、明治末に旧陸軍の演習場となり廃道となりました。その後、1997年に85年ぶりに復活し、須山口登山歩道として利用されています。

村山口登山道

古くは大宮浅間神社から村山浅間神社を通る道が、南麓からの登山道でありました。富士山修験道の中心地村山は必ず通らなければならないところでした。道は村山浅間神社から、現在の新6合目までのもので、室町時代に開さくされたものと思われる。村山は富士信仰の発祥の地であり、富士山表口と言われ、富士修験者の登山者が多く訪れ栄えていました。明治初年、廃仏毀釈により村山浅間神社や富士山から仏像仏具が取り払われ、修験の中心地村山は衰退していきました。以来、富士山は信仰の山というより観光の山としての登山が始まりました。



明治39年、村山を通らない大宮口新道が開かれます。この大宮口は大正2年(1913)富士身延鉄道(現JR身延線)が開通するのを見込んで、当時の大宮町(現在の富士宮市)が県の補助金を得て整備したものです。

以後、ほとんどの登山者が新道を利用、村山の登山道としての機能は失われ、歴史の舞台から姿を消すこととなりました。

明治39年姿を消した村山口登山道(村



(富士登山今昔)

山浅間神社~新6合目)は、登山道としての機能は失われましたが、大宮新道より近いので、当時は貨物運搬に時折使用されていました。

村山口登山道は、近年多くの登山家から注目を浴びています。

外国人と富士登山

1. 外国人登山第1号(1860年7月)

外国人での最初の登山者は、イギリスのオールコック駐日公使で、その後の外国人登山の先鞭をつけたという点では意味深いものでした。登山は大宮から登山口の村山に向かい、そこから登頂を目指しました。



オールコック
(岩波文庫より)

2. 外国人女性登山第1号(1867年)

外国人女性登山第1号は英国公使ハリー・パークス卿夫人で、登山期の過ぎた10月初め、山頂はすでに雪でおおわれている中を登山し、夫と共に登頂に成功しました。

3. 明治時代の外国人登山者

●日本アルプス開拓の父といわれるウエストンが明治23年5月に、まだ中腹まで雪が残っている中を登り、雪中登頂を成功させました。

●日本スキーの父と呼ばれるレルヒは明治44年4月、スキー登山を敢行しました。2,000メートル地点で積雪に到着、そこからスキーをはいて、ジグザグ登行をし、9合目迄登りました。下界の雄大な景観に魅せられ、頂上への未練をすて、スキーによる滑降を開始しました。新聞報道ではスキーによる登頂成功と報じられたが、事実は9合目まででした。



富士山湧水のもたらす恵み

お酒の美味しさは、①水が良い、②米が良い、③技がある、の3つの条件がマッチしたときと言われています。富士西麓には酒造りをする蔵元があり、酒造りへの情熱、探究心、こだわりを持ち合わせた所ばかりです。

富士西麓は富士山からの湧水群に恵まれ、おいしいお酒の条件である良質の水が大量に湧き出しています。

・硬水と軟水

水の成分として、カルシウムやマグネシウムの多い硬水と少ない軟水とがあり、富士山の湧水は後者の軟水です。硬水の代表として、有名な灘や伏見のお酒があります。昔は軟水に合う酵母がな

くて、独自の酒造りが出来ませんでした。最近、軟水にあった“静岡酵母”の登場と管理技術の向上により、水の特質を活かした酒作りが出来るようになりました。

軟水で作られたお酒は、発酵が穏やかであり、大変味わいやすいものです。各蔵元はともに独自の酒造りを始めて全国に発信しています。またこの湧水は年間の水温や成分が一定しているため、富士西麓は、酒造りの環境としてもとても恵まれている所です。

富士山の湧水は、水産業（マス類の養殖）、製紙業の発展に大きく寄与していま

すが、同様に地元の酒造りにも大きく寄与しており、富士山西麓、南西麓の人々の生活に大いなる恵みを与えつづけています。



放冷作業（蒸米を一気に冷ます作業）



本仕込（醪の攪拌作業）

富士山に 寄せる想い

今年で第3回を迎える「富士山百景写真コンテストについて」富士市商業労政課 松村さんにお話をききました。

「富士山百景写真コンテスト」は、富士市商業労政課が観光交流まちづくり計画の一環として立ち上げたプロジェクトで、全国から応募のある注目企画です。



山里の朝

第1回の応募総数は1434点、第2回は1600点と、関心が高まり、今年は2千点を越える応募が期待されています。

コンテストは大きく二つの部門に分かれており、富士市内96エリア及びその周辺で撮影した富士山と、その前景となる風景を中心とした写真による「富士山の風景」部門は、(社)日本写真家協会副会長の竹内敏信氏が審査にあたりま

す。四季折々、雄大な富士の見せる様々な表情がみごとに映しだされた作品が多く、昨年（第2回）のグランプリは、和田鉄男さんの「山里の朝」でした。

また、百景エリアおよびその周辺で撮影した生活・産業・祭り・レクリエーションなど、そこで暮らし、活躍する人々を中心とした

写真による「人々と富士山」部門は、外山ひとみ氏が選考委員を務めます。人々の悲喜こもごもの生活を、富士がじっと見守っているような、心なごむ作品が数多く寄せられているようです。昨年（第2回）は鈴木 勝さんの「希望の朝」が、グランプリを受賞しています。

二部門のコンテストとは別に、エキシビジョンとして「富士山を題材とする創作作品」も同時募集しており、様々な表現による多彩な



希望の朝

作品が集まってきます。

第3回の募集期間は平成19年12月3日(月)～平成20年1月31日(木)です。詳しくは、来年度のガイドブック、またはHPをご覧ください。

HP <http://www.e-phi.info/fuji100>

富士市商業労政課
〒417-8601
静岡県富士市永田町1-100
TEL(0545)55-2777

(写真提供は富士市商業労政課)

災害 体験談

今回第64号よりシリーズとして、昭和47、54年の土石流災害の体験談話を掲載してゆきます。

昭和47年7月12日、大沢崩れに端を発する土石流が発生し、富士宮市の潤井川が増水し下流域に大被害を与えました。その時直接の被害を受けた、上井出地区にある老人ホーム白糸寮の当時の寮長稲垣義雄さんに体験談を語ってもらいました。



「昭和47年7月12日の 平成6年当時の稲垣さん 夜中、ガラガラというかガーンというか表現できない大きな音がしました。河底橋の岸がくずれ、一挙に水がホームの裏側から押し寄せて、白糸寮が水をもろにかぶりしました。ホームのうらの階段を水が一枚板となって上から下へとドーンという勢いで流れていました。うねりを立てて水が流れて中庭で渦を巻いており、立木も流れてきました。水は窓の線まで来ていました。もう助からないという気になりました。本当に恥ずかしい話ですが、茫然とし、なす術を知らない状態になりました。」

〈当時の白糸寮周辺図〉



—富士砂防事務所編「災害体験談話集」より抜粋—

お知らせ

富士砂防事務所 由比出張所 開所式典を開催

平成19年4月9日(月)、静岡県庵原郡由比町役場2階大会議室において、中部地方整備局 富士砂防事務所 由比出張所の「開所式典」を開催しました。

由比出張所は由比町役場の一部をお借りして開設し業務開始となりました。出張所長をはじめ5名が勤務して、地すべり対策工事の監督・地元調整・地すべり防止区域に係わる許認可・地域の方からのお問い合わせなどに、今までにも増してきめ細かな対応をさせていただきます。



砂防フェスティバルしずおか

6月10日(日)青葉シンボルロードにおいて、静岡県河川事務所、富士砂防事務所、沼津河川国道事務所、静岡県、静岡市、静岡県地方気象台の共催により、6月の土砂災害防止月間の一貫として、砂防フェスティバルしずおかが開催されました。このイベントは、土砂災害等に関するクイズラリーや、土砂災害・砂防事業に関するパネル展示をすることで、土砂災害の防止や被害の軽減に関して国民の関心と理解を深めてもらう事を目的としています。

富士砂防事務所からは、富士山周辺で噴火が起きた場合どのように溶岩流が流れるか想定した「溶岩流3次元マップ動画」の上映や「パネル展示」などにより、土砂災害防止に関するPRを行いました。



富士山総合学習及び現地見学会等結果報告

案 内 日	内 容	見 学 者	合 計
4月11日(水)	概要説明と扇状地見学	ミシガン州カラマズー市民	32
5月11日(金)	概要説明と扇状地見学	斉藤斗志二議員後援会エプロンの会	45
5月16日(水)	概要説明と扇状地見学	松本砂防友の会	28
5月18日(金)	出前講師	山梨県砂防ボランティア協会	70
5月18日(金)	扇状地見学	御殿場市立御殿場中学校	217
5月27日(日)	自然災害体験車	THAT参加者	271
6月1日(金)	出前講師	富士丘区高齢者	28
6月4日(月)	概要説明と現場見学	東京大学	21
6月5日(火)	由比地すべり対策見学	東京大学	21
6月6日(水)	扇状地見学	御殿場市立西中学校	121
6月7日(木)	出前講師	静岡大学農学部	40
6月8日(金)	扇状地等見学	JICA	3
6月8日(金)	概要説明	富士宮市立根北中学校	6
6月11日(月)	出前講師	富士宮市立上井出小学校	13
6月13日(水)	出前講師	上井出区高齢者	21
6月14日(木)	概要説明と扇状地見学	富士宮市立富士宮第二中学校	11
6月20日(水)	概要説明と扇状地見学	富士宮市淀橋区	22
6月28日(木)	扇状地見学	富士宮市立上井出小学校	13
6月28日(木)	出前講師	富士宮市立大富士中学校	43

「富士砂防事務所インフォメーション」

～FMラジオにて情報発信中～

Radio 84.4fm Radio-f(ラジオエフ)



～富士山の基礎知識、富士砂防事務所が開催するイベント情報、防災情報等～

コミュニティFM「Radio-f」(84.4MHz) 毎週水曜日 17:40頃から5分間

「富士山について、こんな話を聞きたい」といったリクエストやお便りを募集しています。

宛先など詳しい情報はラジオホームページ(www.radio-f.jp)より、「富士砂防事務所インフォメーション」係までお願いします。

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報の提供をお願いいたします。

■国土交通省 富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
担当/総務課長・小川、または調査課長・石原まで

TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

■富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出1321-9 TEL.0544-54-0236

■由比出張所
〒421-3104 静岡県庵原郡由比町北田110-1 TEL.054-375-5646

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。
今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。

フーちゃん公園 花植え

6月26日(火)、富士砂防事務所は富士市上井出保育園の園児と共に、潤井川流路工治いの「フーちゃん公園」の花壇に色とりどりの花を植え、交流を深めました。



環富士山火山防災シンポジウム

環富士山火山防災シンポジウムを、平成19年11月25日に富士宮市民文化会館を会場に開催します。また26日には現地見学会を行います。

シンポジウムは海外からの専門家を交えたワークショップ・パネルディスカッション等も行います。

今年は宝永噴火から丸300年を迎える中、富士山麓の皆さんに活火山・富士山に対する理解を深めていただくとともに火山防災への備えを強化するきっかけにさせていただきたいと考えています。

富士山への手紙・絵コンクール 作品募集

富士宮市、富士宮市教育委員会、富士砂防事務所が主催する「富士山への手紙・絵コンクール」の作品を募集しています。

この「手紙・絵コンクール」は、富士山に関して“寄せる思い”、“学んだこと”、“共に生きること”を手紙や絵に表現したものを募集するもので、毎年、多くの方々にご応募頂いております。

皆さんふるってご応募下さい。

■手紙部門

- ・応募資格：小学生以上
- ・作品規格：一人1点

(未発表のもの)、官製はがき(400字以内)

■絵部門

- ・応募資格：どなたでも応募できます。
- ・作品規格：「一人1点」未発表のオリジナル作品に限ります。画材や表現方法に制限はありませんが、クレヨンなど他の作品を汚す恐れのある画材の使用は、ご配慮下さい。用紙は四つ切(54.0×38.0cm)を使用して下さい。なお、額縁の使用は、できる限りご遠慮願います。

■募集方法

- ・募集期間：平成19年7月1日(日)～9月14日(金)
- ・宛 先：〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地

富士宮市教育委員会 学校教育課

「富士山への手紙・絵コンクール」事務局

※詳しくは、富士宮市教育委員会のホームページ、もしくは富士宮市教育委員会教育課窓口、富士砂防事務所、富士宮市内の図書館、郵便局、公民館などに置いてある募集要項をご覧ください。また、富士砂防事務所のホームページからも募集ページへ進むことができます。



私が担当しています



調査課(砂防調査・計画担当)

中川 達也

第64号より「FUJISABO通信 ふじあざみ」の編集を担当します。日本のシンボル富士山で砂防事業に携わる事が出来てとても誇りに感じています。

皆さまがなるほどと思うような富士山に関する情報、当事務所での取り組み内容について読みやすく、分かりやすい広報誌として情報発信をしたいと思っています。

※本誌は再生紙と環境にやさしいインクを使用しています。